ポスターセッション

流域治水および水源の山から海への総合的な学習機会の創造
～茅渟の海と鳩の湖 なかをとりもつ淀川の流れ事業より～

きしわだ自然資料館　風間 美穂
結 creation/ 大阪市立自然史博物館　外来研究員　北村 美香

琵琶湖淀川水系における治水利水、自然や文化を学ぶ機会を提供し、水系全体への興味関心を促す取り組みを実施した。「水と人との関わり」をテーマに、琵琶湖から大阪湾までのつながりを知る総合的な学習の機会創造を博物館や漁業者など複数の団体と連携し、実現することができた。本事業より得られたネットワークや意見などを元に、地域の資源を活用できるようなシステムや関係性の構築へとつなげていきたい。

千葉県立中央博物館生態園でのボランティア活動について

千葉県立中央博物館　生態・環境研究部生態学・環境研究科　坂田 歩美

千葉県立中央博物館には、生きものの自然の中での暮らしぶり（生態）を展示する野外博物館というコンセプトに基づいて整備された自然観察施設がある。この自然観察施設は「生態園」と呼ばれ、市民が自然と親しむために、様々な行事を行っている。これらの行事の運営にはボランティアの活躍が欠かせない。本発表では生態園オリジナル行事「森の調査隊」におけるボランティアの取り組みについて紹介する。

地域コミュニティと共創する学習プログラムの実践

太地町立くじらの博物館　学芸員　中江　環

くじらの博物館は、地域の学校との連携を積極的に行っている。特に学校教諭や保護者、地域の人々らとともに作り上げた、地元小学校との連携事業である地域学習プログラム「くじら学習」は 16 年間継続することができている。こうした連携を長期に渡り継続できた理由は、関係各者が互いの顔が見える密な関係性を維持してきたことが大きい。本発表では、博物館が行政や学校、地域の人々とどのようにして密な関係を築き、「地域の教室」としての役割を担うために奮闘してきたかについて、当館の地域学習プログラムの実践例を中心に紹介する。

博物館と地域が手をつなぎ“子どもの育ちを共に見守る”

高槻市立自然博物館　あくあぴあ芥川　学芸員　秀瀬 みのり

当館は標本が登場する「おはなし会」や、公園内の自然を楽しむ「公園博物館」を未就学児対象に開催している。これらは地域に根づいている子育て支援団体の協力のもとに成り立っている。子どもが文化的生活に参加し自由に活動できる場を作りたいという団体側と、小さな子どもの頃から自然に親しむ心を育てたい博物館側の方向性が強く合致したことが大きい。本発表では、子育て支援を軸とする活動のきっかけや概要、その後の展開について紹介する。

仙台市天文台の各種サポーター制度について

仙台市天文台　企画交流係　郷古 由規
仲　千春

当台は 2008 年から PFI 方式による施設運営を行っている。基本方針策定時からファンサポーター、オーナーサポーター、スタッフサポーター、ブレインサポーターの 4 つのサポーター制度を制定し、実際に運用を行ってきた。本発表ではこの 15 年間の各種サポーター活動の概要および成果について紹介する。

生物多様性情報標準化会議 (TDWG) および国際自然史標本保存学会 (SPNHC) の動向と日本の自然史コレクション情報

大阪市立自然史博物館　学芸課長　佐久間 大輔

2024 年 9 月 2 ～ 6 日に沖縄県にて生物多様性情報標準化会議 TDWG および国際自然史標本保存学会 SPNHC が開催される。自然史系博物館にも重要なテーマを議論するこれらの学会でどのようなことが議論されるのか、また、日本の博物館からどのような発表が期待されているのか、2023 年度大会の状況を含めて報告する。

小さい子どもたちに環境に関わる体験を届ける「ふるさと兵庫こども環境体験推進事業」の「しぜん たいけん」について

兵庫県立人と自然の博物館　研究員　小舘 誓治
主任研究員　八木　剛
研究員　大平 和弘
こども環境体験コーディネーター　辰村　絢
こども環境体験コーディネーター　河田 麻美
主任研究員　半田 久美子

兵庫県では、自然系の博物館である人と自然の博物館と環境部環境政策課が連携して、幼稚園・保育所・認定こども園の園児や先生を対象に「ふるさと兵庫こども環境体験推進事業」（通称：ひょうごエコロコ プロジェクト）を実施している。

この事業は、小さな子どもたちに地域の自然や生きものに興味関心を高めてもらうことを目標の 1 つとしている。発表では、事業の概要と特にプログラムの 1 つである「しぜん たいけん」を中心に紹介する。

総合知を目指すサイエンスコミュニケーション活動に関する共同研究
～東近江市との共創プログラムの実践～

トータルメディア開発研究所　大塚 理恵
高橋 伸幸
高安 礼士
国立科学博物館　有田 寛之
國府方 吾郎
東近江市　森の文化博物館整備課　西川　寛
博物館構想推進課　嶋田 直人
西堀榮三郎記念探検の殿堂　角川 咲江
小林 亜美

共創プログラム「ギモンを手に入れろ」は、子どもたちに“創造の芽”を育むプログラムとして新たに開発したものです。フィールドを活用した体験から五感を刺激し、知的好奇心を喚起しながら「ギモン」を見つけられるように、連続講座を通して試行錯誤しました。子どもたちが見つけたさまざまな「ギモン」から、探究学習についての方策とサイエンスコミュニケータを軸にした新たな時代に求められる博物館事業について紹介します。

板橋ラーニングパーク構想
～科学館からコミュニティーセンターへ～

板橋区立教育科学館　池辺　靖
清水 輝大

板橋区立教育科学館は、2022 年 4 月より CTC 共同事業体 (コングレ & 東急コミュニティ) が新規の指定管理者として運営にあたっているが、新たな活動目標として、地域コミュニティーとともにつくりだす学びの場の実現を掲げている。具体的には、地域企業との協働（企画展、科学教室）、近隣の小学児童・中高生・大学生との協働（科学教室、ワークショップ、天体観望会）などにより、地域住民が相互に学びあう機会を創出している。

ヒスイ以外はただの石？
石を楽しむための取り組み「石のまち糸魚川展」

糸魚川フォッサマグナミュージアム　郡山 鈴夏
茨木 洋介
小河原 孝彦
香取 拓馬
竹之内　耕

2022 年 11 月にヒスイが新潟県の石に指定されるなど糸魚川産ヒスイに注目が寄せられている。糸魚川市内の海岸では多くの方がヒスイ探しを楽しんでおり、フォッサマグナミュージアムでは海岸で拾った石を学芸員が鑑定する「石の鑑定」を土日限定でおこなっている。時折「ヒスイの鑑定」と間違われる本サービスは「ヒスイかそれ以外か」ではなく、すべての石に名前を付け岩石の面白さを伝えている。2023 年 7 月にヒスイをはじめとした糸魚川の多様な岩石をより一層楽しんでもらうために「石のまち糸魚川展」を開催した。

名古屋市科学館のボランティア活動

名古屋市科学館　学芸課　小塩 哲朗

名古屋市科学館では、現在「ものづくりボランティア」（145 人）、「展示室ボランティア」（233 人）、「B6 蒸気機関車整備ボランティア」（18 人）、「天文ボランティア」（114 人）、の 4 つのボランティア制度がある（（ ）内は登録者数）。本発表では、それぞれの制度について、活動内容、設立の経緯、養成課程などについて紹介する。